

若年層の性暴力被害の実態に関する オンラインアンケート及びヒアリング結果<概要>

令和4年6月17日
内閣府
男女共同参画局

オンラインアンケート結果

性暴力被害を受けた若年層の方の状況を把握し、施策を検討することを目的に、若年層の性暴力の被害実態に関するオンラインアンケートを実施した。

1. 実施概要

【対象】 16～24歳のアンケートモニター

- (1) スクリーニング調査- 有効回答数8,941人
 - 内訳① 1次配信分の回答6,224人 (回収率2.82%)
 - ② 2次配信分の回答2,717人 (回収率2.53%)
- (2) 本調査- 有効回答数2,040人

2. 定義

- ◆若年層：16～24歳の方
- ◆性暴力：望まない性的な言動

3. 性暴力被害の分類と例示

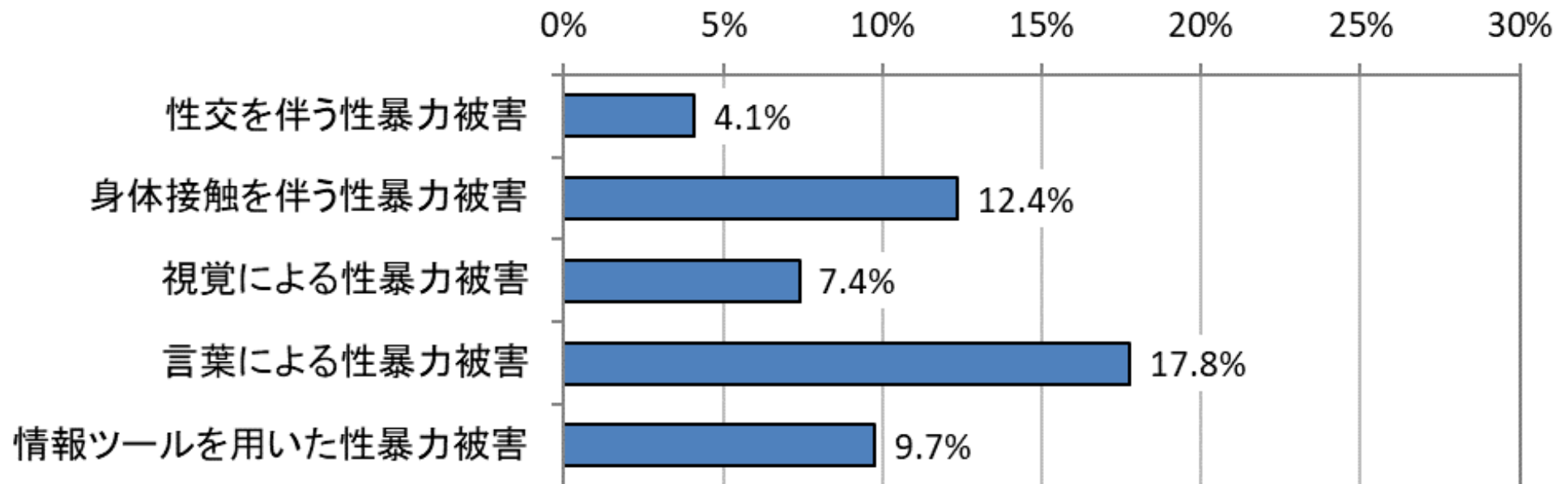
性暴力被害の分類と例示

分類	例示
性交を伴う性暴力	相手の身体の一部や異物を無理やり膣や口、肛門に挿入された、避妊なしに性交させられた 等
身体接触を伴う性暴力	体を触られた、抱きつかれた、キスをされた、相手の体を触らせられた、服を脱がされた・脱がせられた、性器を押し付けられた、体液をかけられた 等
視覚による性暴力	相手の裸や性器を見せられた 等
言葉による性暴力	言葉で性的な嫌がらせを受けた、体の特徴についてからかわれた、いやらしいことを言われた 等
情報ツールを用いた性暴力	インターネット・携帯電話・スマホなどで性的に嫌な経験をした、見たくない画像や動画を見させられた、下着や裸を撮影された、下着姿や裸の写真を送るよう強要された、なりすました相手から性的な嫌がらせを受けた 等

4. 性暴力被害 5 分類の被害遭遇率

- 1次配信の6,224人のうち1,644人（26.4%）、約4人に1人が何らかの性暴力被害にあったことがあると回答した。
- 性暴力被害の分類別にみると、言葉による性暴力被害が17.8%と最も高く、次いで身体接触を伴う性暴力被害が12.4%、情報ツールを用いた性暴力被害が9.7%と続く。性交を伴う性暴力被害は4.1%となっている。

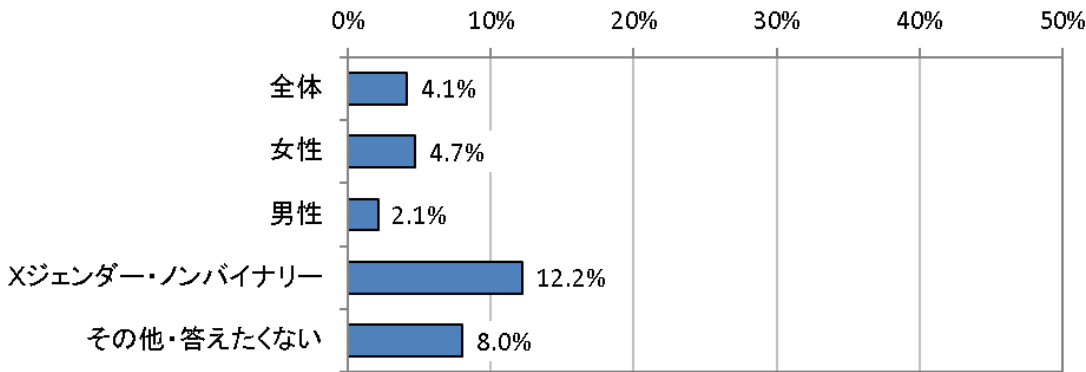
性暴力被害 5 分類への遭遇率（1次配信分、n=6,224:複数回答）



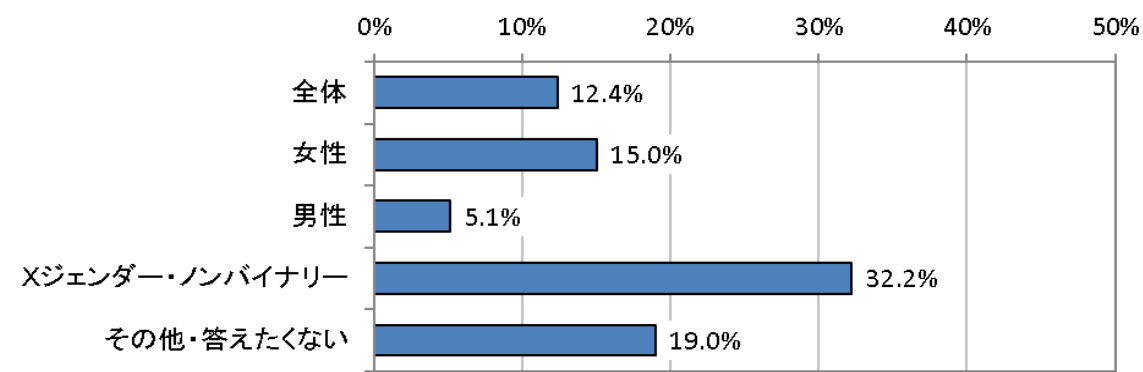
※遭遇率においては、人口分布を考慮した1次配信分の結果（回答数6,224人）のみを活用する。なお、本結果は、1次配信調査の回収率が全体で2.82%であることから、母集団の特性を反映する疫学的なデータとは言えず任意の回答者（＝積極的に回答した方）の回答内容に基づいた結果であり、疫学的遭遇率を示すものではないことに留意されたい。

<参考> 性別または性自認別にみた性暴力被害5分類の被害遭遇率（1次配信分、n=6,224）

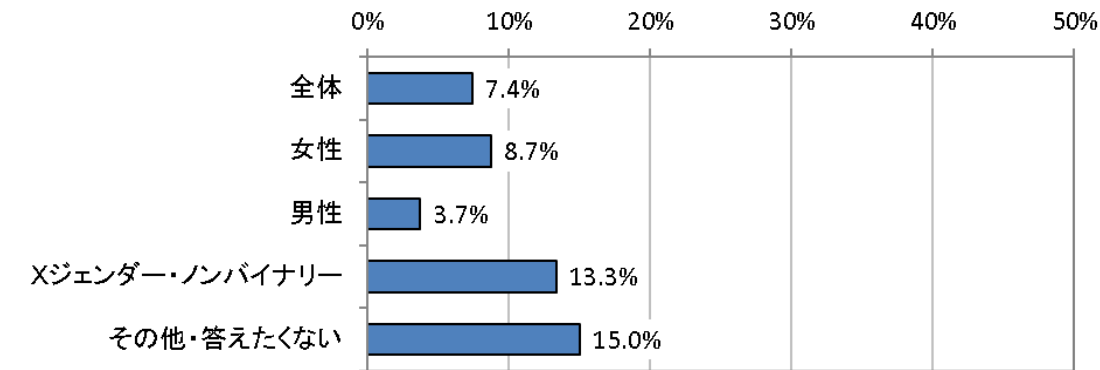
①性交を伴う性暴力



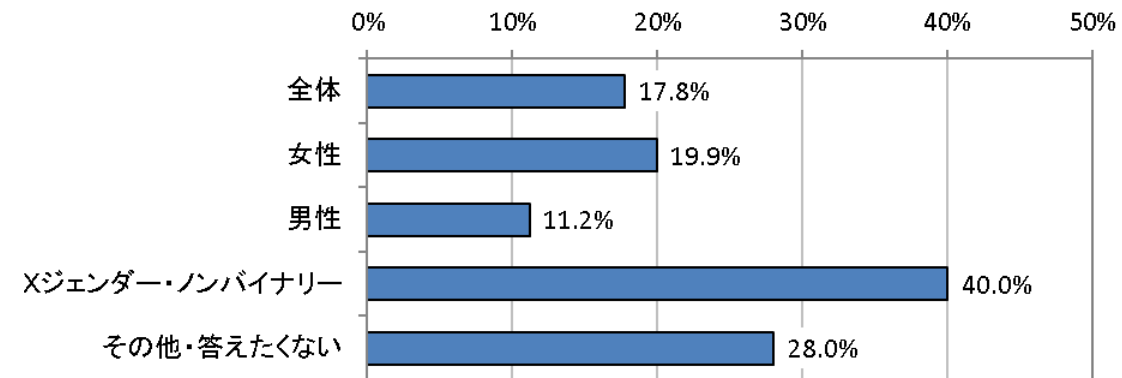
②身体接触を伴う性暴力



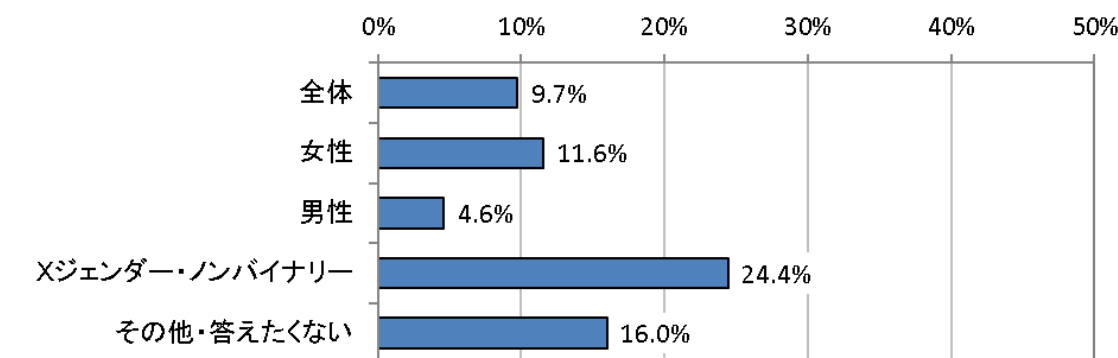
③視覚による性暴力



④言葉による性暴力



⑤情報ツールを用いた性暴力



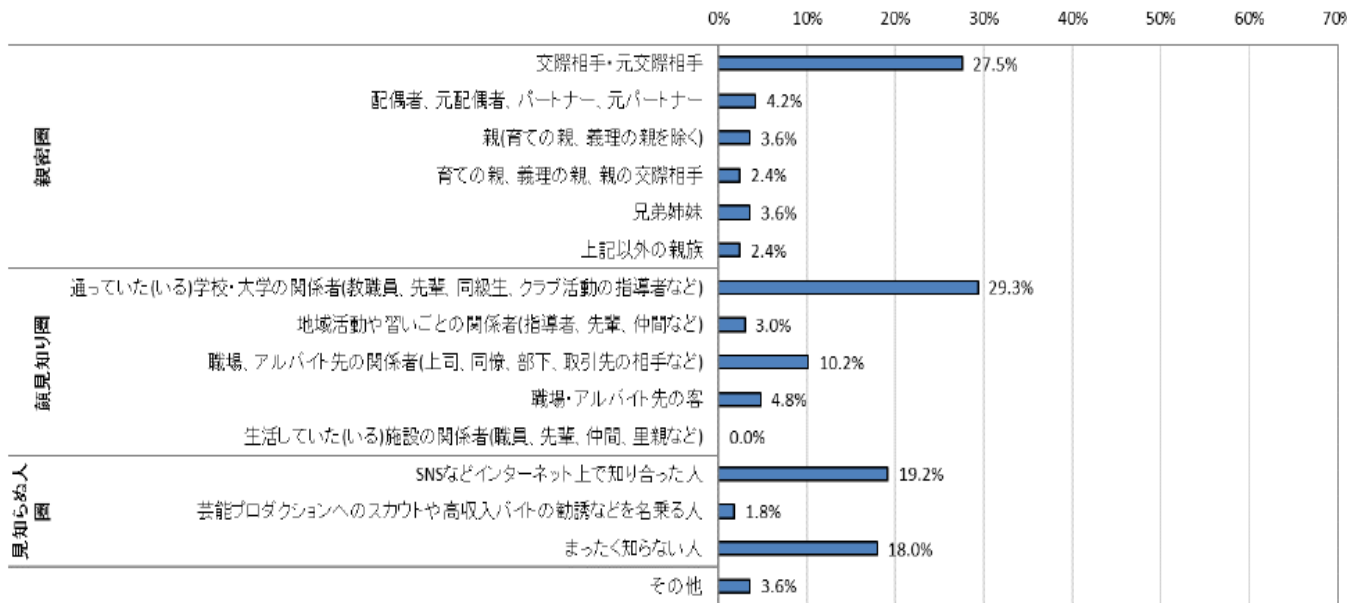
※Xジェンダー・ノンバイナリー、その他・答えたくないは、女性、男性と比較して回答数が少ないことに留意が必要。

5. 性交を伴う性暴力被害の特徴

- 加害者として、学校の関係者（教職員、先輩、同級生等）、(元)交際相手、インターネット上で知り合った人、知らない人等を挙げるケースが多い。
- 性暴力被害をどこにも相談をしなかったケースが半数を超え、相談できたケースにおいても相談までに時間を要することが多い。
- 全ての性暴力被害分類の中で最も被害からの回復状況が芳しくない。

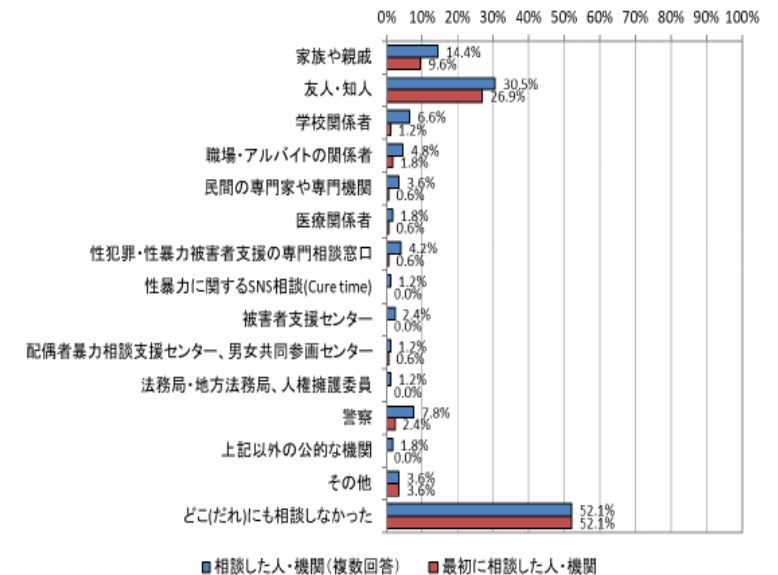
図表 2-55 【性交を伴う性暴力被害】加害者について

<加害者との関係(複数回答、n=167)>

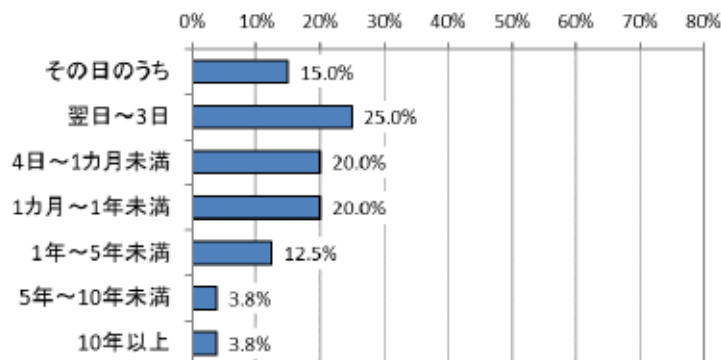


図表 2-57 【性交を伴う性暴力被害】性暴力被害の相談状況について

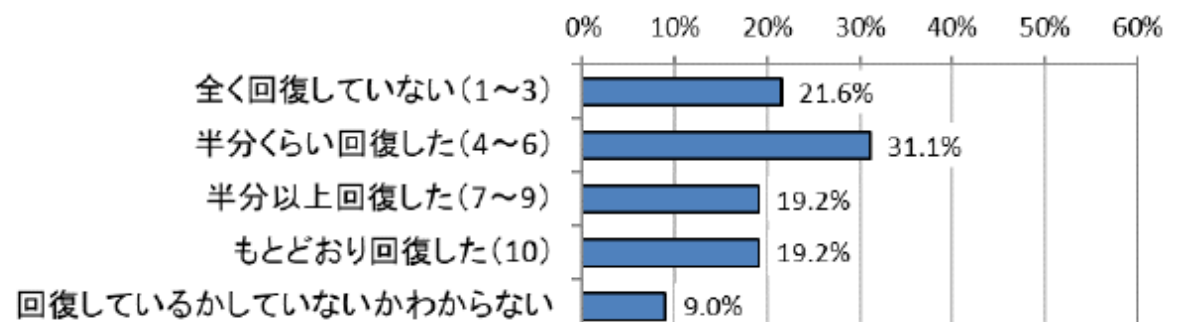
<相談した人・機関(複数回答、n=167)、最初に相談した人・機関(n=167)>



<相談までに要した期間(n=80)>



<被害からの回復状況>

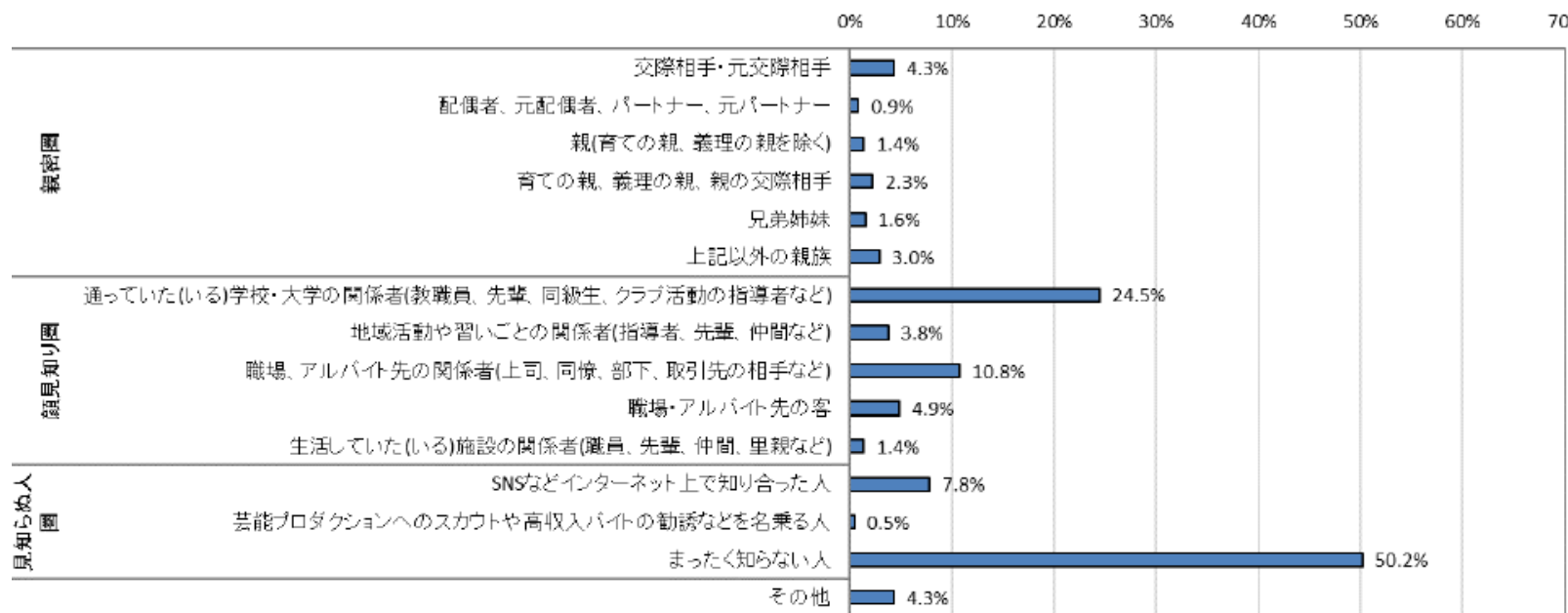


6. 身体接触を伴う性暴力被害の特徴①

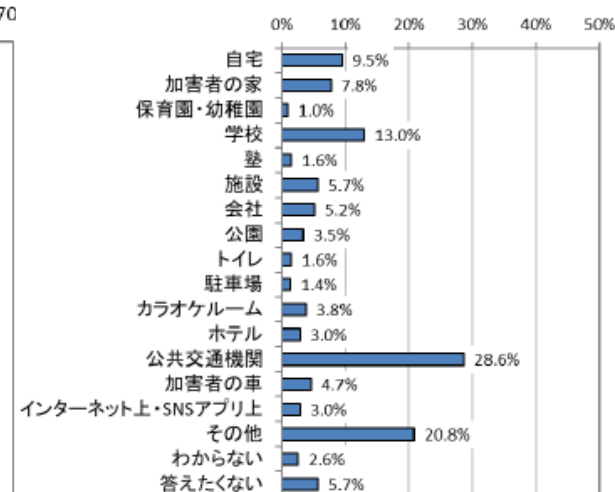
- まったく知らない人や学校の関係者（教職員、先輩、同級生等）が加害者であることが多く、異性及び社会的地位が上位の者による加害が多い。
- 公共交通機関、路上、学校等で被害にあうケースが多く、1回限りの被害が多い。

図表 2-50 【身体接触を伴う性暴力被害】加害者について

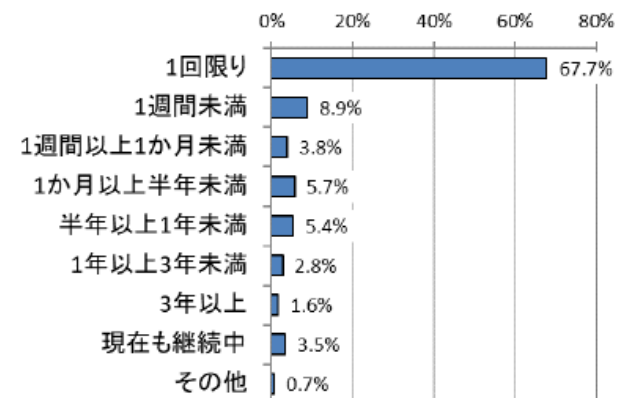
<加害者との関係(複数回答、n=576)>



<被害にあった場所(複数回答)>



<被害の継続期間>

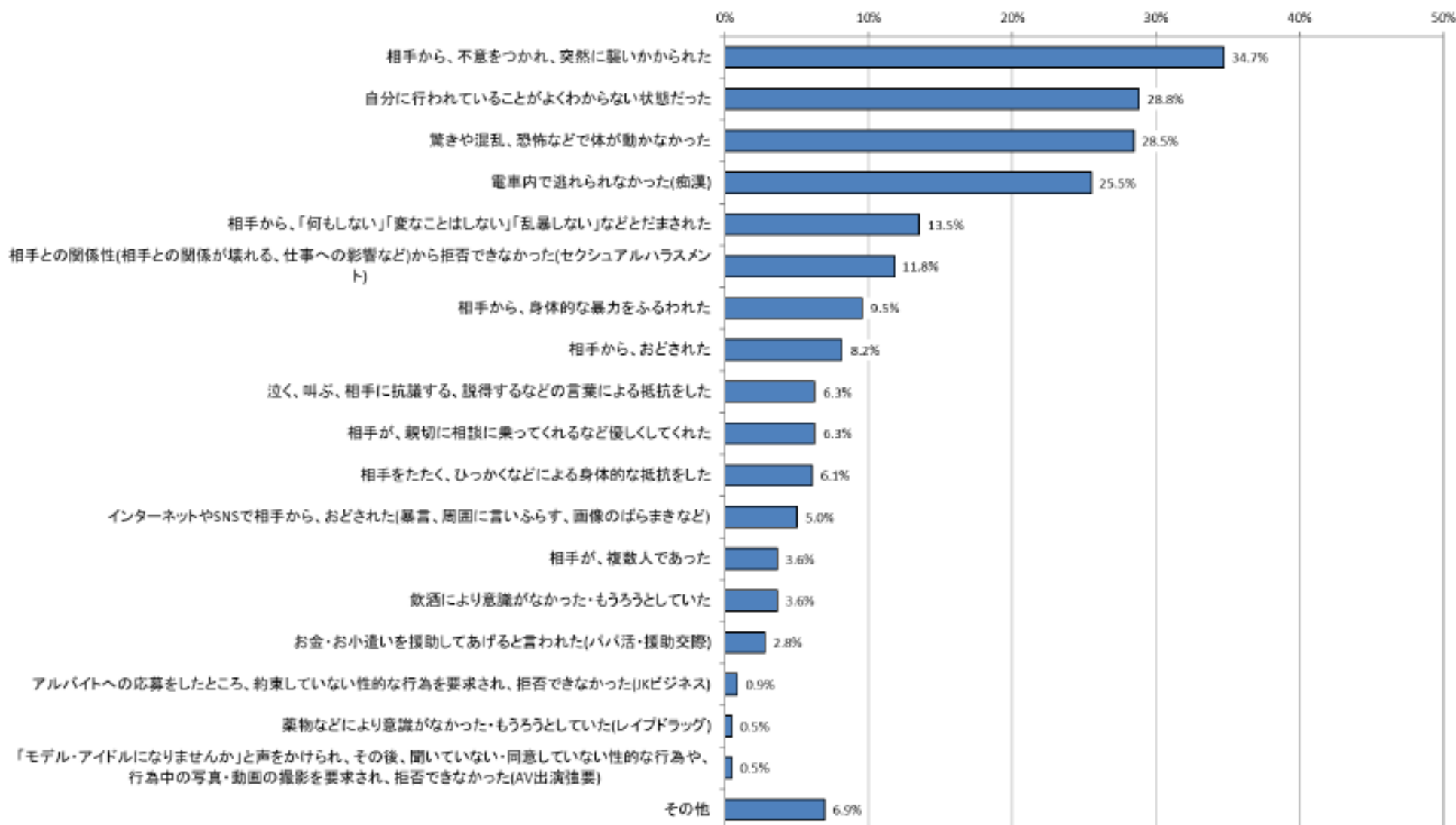


6. 身体接触を伴う性暴力被害の特徴②

○性暴力被害にあった際の状況として、突然に襲いかかられた、自分に行われていることがよくわからなかった、驚き・恐怖等で体が動かなかった、電車内で逃げられなかった等との回答が多い。

図表 2-5 1 【身体接触を伴う性暴力被害】性暴力被害の状況について (n=576)

<被害にあったときの状況(複数回答)>



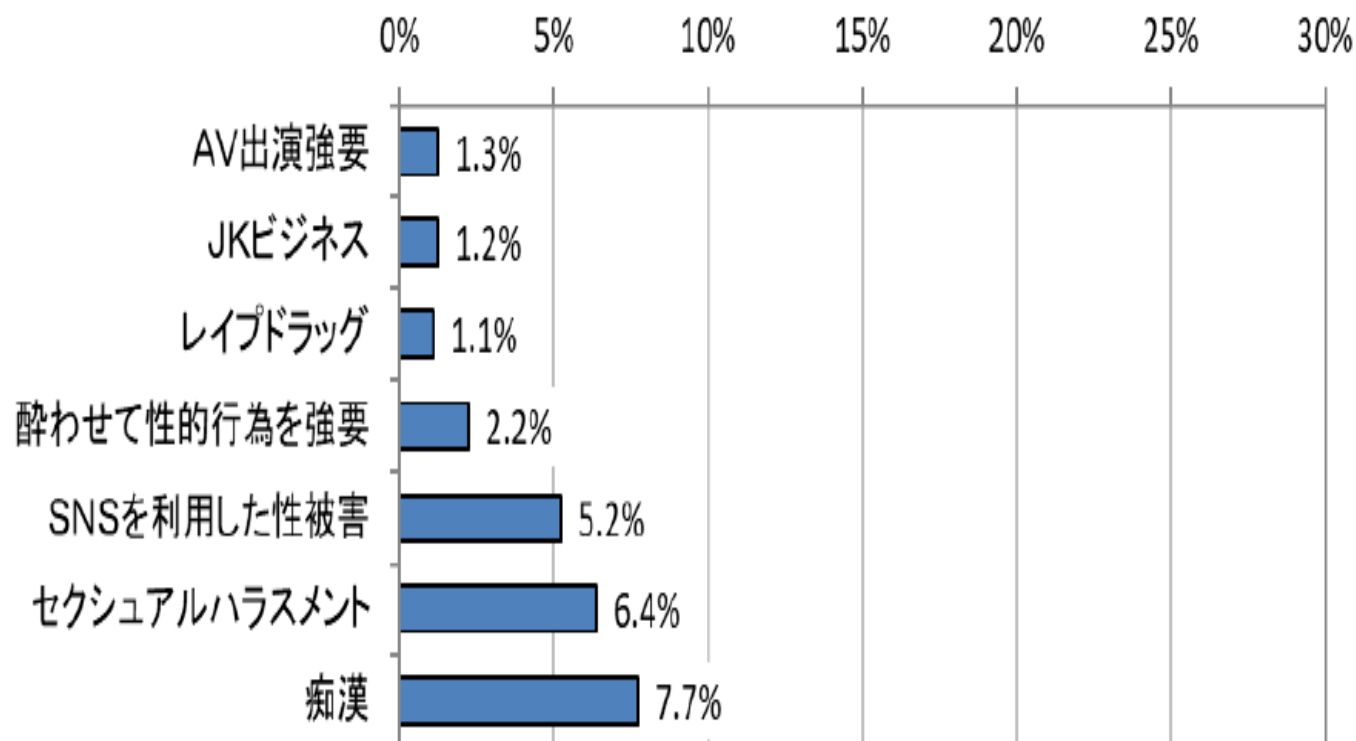
7. 被害分類の特徴

	加害者	被害の状況	相談状況	生活の変化
言葉による性暴力	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の関係者（教職員、先輩、同級生等）が加害者であることが多い ・異性による被害が多いが、同性による加害も多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・場所は学校が多い ・1回限りの被害が半数を超える 	<ul style="list-style-type: none"> ・どこにも相談しなかったケースは半数超 ・相談した人は家族・親戚、友人・知人の順が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・性暴力被害により、自信がなくなったとの回答が多い
視覚による性暴力	<ul style="list-style-type: none"> ・知らない人が加害者であることが多い ・社会的地位が同等または下位の者による加害が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・被害場所は路上、公共交通機関、学校等が多い ・1回限りの被害が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・どこにも相談しなかったケースは他と比べるとやや少ない ・相談した人は家族・親戚、友人・知人の順が多い ・比較的短期間で相談に至ったケースが多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の変化は特になしとの回答が多い ・性暴力被害から回復したとの回答が多い
身体接触を伴う性暴力	<ul style="list-style-type: none"> ・知らない人や学校の関係者（教職員、先輩、同級生等）が加害者であることが多い ・異性及び社会的地位が上位の者による加害が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・場所は公共交通機関、路上、学校が多い ・突然に襲いかかられた、自分に行われていることがよくわからなかった等の回答が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・どこにも相談しなかったケースは他と比べるとやや少ない ・相談した人は友人・知人、家族・親戚の順が多い ・比較的短期間で相談に至ったケースが多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活変化は特になしとの回答も多いが、異性と会うのが怖くなった、外出するのが怖くなった等の回答も多い
性交を伴う性暴力	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の関係者（教職員、先輩、同級生等）、(元)交際相手、インターネット上で知り合った人、知らない人等が加害者であるケースが多い ・社会的立場が上位の者による加害が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・加害者の家、自宅、ホテル等での被害が多い ・被害が継続する率が高い ・突然に襲いかかられた、相手から「何もしない」等とだまされた、驚き・恐怖等で体が動かなかった等、多様な回答がみられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・どこにも相談をしなかったケースが半数超 ・相談できたケースでも相談までに時間を要することが多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・異性と会うのが怖くなった、誰のことも信じられなくなった、眠れなくなった、自信がなくなった、生きているのが嫌になった等を訴える被害者が多く、最も被害からの回復状況が芳しくない
情報ツールを用いた性暴力	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット上で知り合った人や知らない人が加害者との比率が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・被害場所はインターネット・SNS上が多いほか、公共交通機関、自宅、学校、加害者の家等もみられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・どこにも相談をしなかったケースが半数超 ・相談した人は友人・知人、家族・親戚の順に多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・夜眠れなくなった、メールアドレス・SNSアカウントを削除・変えた等がみられている ・性暴力被害から回復したとの回答は他の性暴力被害分類と比べて多い

8. 手口7分類への遭遇率

- 1次配信の6,224人のうち920人（14.8%）、約7人に1人が何らかの手口の被害にあったことがあると回答した。
- 手口の分類別にみると、痴漢が7.7%と最も高く、次いでセクシュアルハラスメント6.4%、SNSを利用した性被害が5.2%と続く。

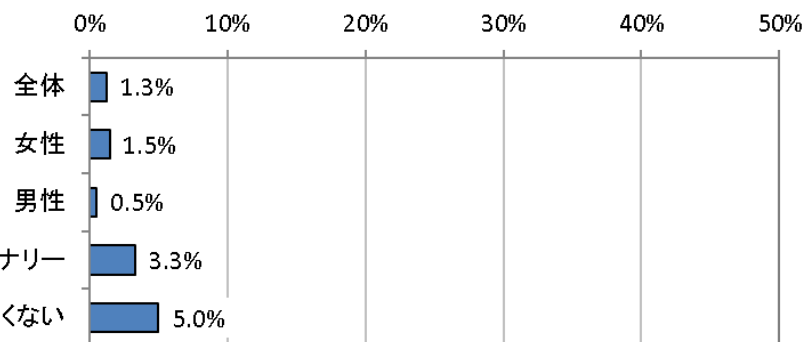
図表 2-12 手口7分類への遭遇率（1次配信分、n=6,224:複数回答）



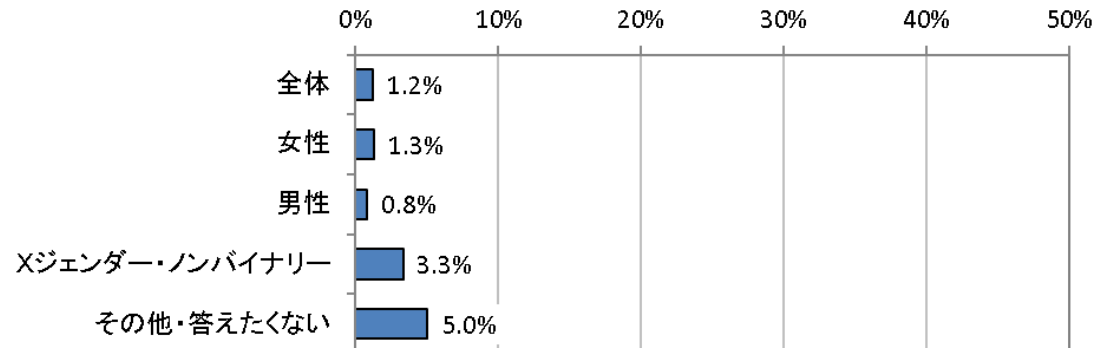
※「性暴力被害の遭遇率」と同様、本結果は、配信への回答率からも、Webアンケートモニターのうちアンケートに任意で回答した方（＝積極的に回答した方）の回答内容に基づいており、疫学的遭遇率を示すものではないことを付記する。

<参考> 性別または性自認別にみた7つの手口の被害遭遇率（1次配信分、n=6,224）

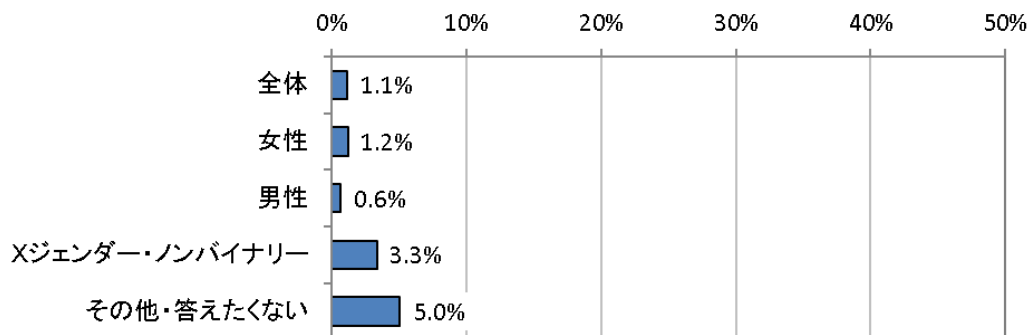
① A V出演強要



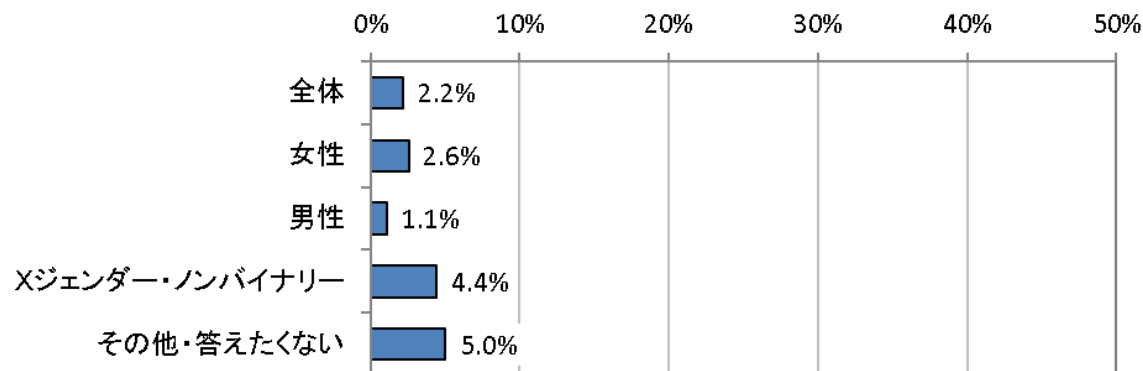
② J Kビジネス



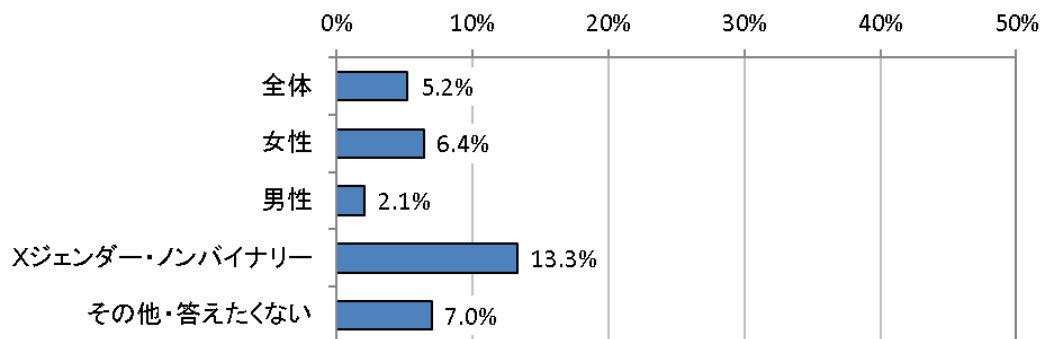
③ レイプドラッグ



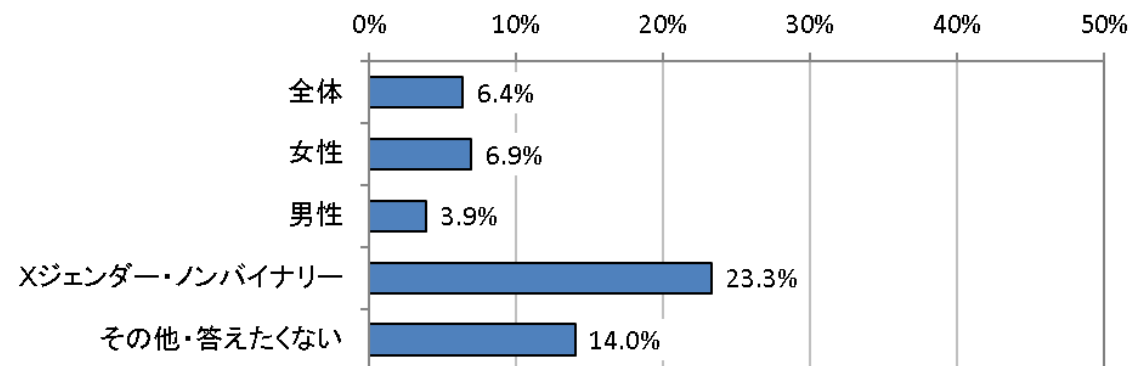
④ 酔わせて性的行為を強要



⑤ SNSを利用した性被害

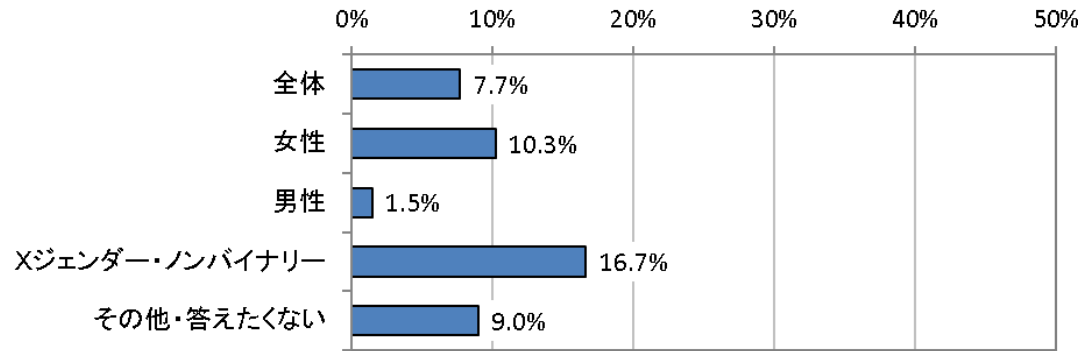


⑥ セクシュアルハラスメント



※Xジェンダー・ノンバイナリー、その他・答えたくないは、女性、男性と比較して回答数が少ないことに留意が必要。

⑦痴漢



※Xジェンダー・ノンバイナリー、その他・答えたくないは、女性、男性と比較して回答数が少ないことに留意が必要。

9. 痴漢の特徴

○身体接触を伴う性暴力被害において、被害にあったときの状況を聞いたところ、「電車内で逃げられなかった（痴漢）」との回答は25.5%であった。

【アンケート自由意見（抜粋）】

- 痴漢被害にあった当時、どのように対処すべきかといった知識がなかったために、未だに心残りがあります。私は、相談などにより恐怖をはじめとした精神面に寄り添ってほしかったというような希望ではなく、加害者が現在何事もなかったようにのうのうと生活を送れていることが、ただただ腹立たしく感じてしまうため、性犯罪を罰するために被害者がとることの可能な対処法について周知してほしいです。また、性犯罪を取り締まる体制も強化してほしいです。
- 痴漢を受けた、セクハラをされた、などと周りに言うと「あなたが誘ったんでしょ」と一蹴されることが多いので、その風潮だけでもどうにかならぬかなとずっと思っています。悪いのは相手なので、加害者を責めることができるようになればいいと思います。
- 痴漢に対する世間的な罪の重さの認識が低すぎると思うので、痴漢の減少と被害者がどんな服装や見た目をしているても非が全くないという認識が増えればいいと思う。
- 幼い頃に痴漢にあったため、よくわかっていませんでした。後から思い出し嫌な気持ちにならないためにも、早い頃からこうされたらこうするみたいな教育を保育園、幼稚園などでもしてほしいかなと思います。

<参考> 手口の特徴

	加害者	被害の状況	相談状況	生活の変化
痴漢	<ul style="list-style-type: none"> 加害者は、知らない人が8割弱、高校・大学等の関係者が2割強 異性による加害が9割超 	<ul style="list-style-type: none"> 被害場所は公共交通機関が約8割 1回限りの被害が6割強となっている 	<ul style="list-style-type: none"> どこにも相談しなかったは4割弱 被害から3日以内の相談が8割弱に達する 	<ul style="list-style-type: none"> 被害による生活変化は特になしが約3割と多いが、外出するのが怖くなった、異性と会うのが怖くなった等の回答も多い
セクシュアルハラスメント	<ul style="list-style-type: none"> 学校の関係者（教職員、先輩、同級生等）、職場・バイト先の関係者、(元)交際相手が加害者であることが多い 社会的地位等が上位の者からの被害が7割弱 	<ul style="list-style-type: none"> 被害場所は学校、加害者の家、自宅、会社等が多い 1回限りの被害は4割強と全対比で少なく、継続被害の多さがうかがえる 	<ul style="list-style-type: none"> どこにも相談しなかったは4割強。 被害から3日以内の相談は約4割にとどまり、相談までに期間を要する傾向がみられる 	<ul style="list-style-type: none"> 被害からもとどおり回復したとの回答は2割超にとどまり、被害の影響の大きさがうかがえる

10. 必要な手助け・支援

- 性暴力被害を受けた直後における具体的支援としては、事件・被害に関する話を聞いてもらう、精神的な支え、どのような支援・配慮が必要かわからない、特になしの順に多い。
- どのような支援・配慮が必要かわからないとの回答層は、どこにも相談できなかった回答者が多く、理由として、どこに相談してよいかわからなかった、相談相手の言動によって不快な思いをさせられる、相手の行為が理解できず被害を受けたと思わなかった等の回答比率が高い。若年層に対し、支援の必要性、支援メニュー等の情報が届いていない状況がうかがえた。

11. 性暴力のない社会にするために必要な取組

- 性暴力のない社会にするために必要な取組としては、「性犯罪・性暴力に関する刑法を改正して、加害者を罪に問えるようにしたり、罪を重くする」との回答が最も多く、「社会全体に性犯罪・性暴力について広く知ってもらうこと」、「性暴力の加害者・被害者・傍観者にならないための教育・人権教育の推進」が続く。
- 性暴力被害の相談をしやすくするために強化が必要な取組としては、24時間・365日相談対応、多様な相談方法（SNS相談など）、無料化へのニーズが多く、これに相談窓口の周知、早期から性の安全に関する教育等が続く。

12. 自由意見（抜粋）

【性暴力であることを認識できなかった】

○被害にあっている時は、自分があっているという実感がなく、何もできず悔しかった。

○小学生の頃の出来事で、自分は一体何をされたのかさえ理解できていなかった。

【被害を訴えることができなかった、相談できなかった】

○社会人になるまでは自分には遠い存在だと感じていた性的犯罪でしたが実際に起こった時に恐怖で何もすることができませんでした。

○小学生のときに経験して恥ずかしく思い誰にも言えず1人抱え込んでしまいました。

【今でも思い出してしまう】

○高校の同級生の男に加害された。周りの男は笑っていた。気持ち悪い。被害内容は言いたくないけど他の人からしたら「え？それだけ？」と感じたと思う。でも私は一生忘れないし、一生気持ち悪いと頭の片隅で思い続けるだろう。これを書いている今も無意識に緊張して寒気を感じ震えていた。今思い出して当時自分で感じていた怖さよりもっと怖かったんだなと思って泣きそうになった。最初はアンケートでこんなこと聞いてくんのかよと思ったけど、性被害にあった女性への支援に少しでも繋がるならと思ってこれを書いた。

【性犯罪・性暴力に関する刑法を改正して、加害者を罪に問えるようする、罪を重くする】

○痴漢の加害者に対する罰や見守り強化など、きちんとした制度を確立させてほしい。痴漢はほとんどの女性が経験している一方で、警察に相談するなど実際に声を上げている人はほんの一部です。些細なことすぎて声をあげにくい環境も変えてほしいと思いました。

ヒアリング結果

1. 実施要領

- 【目的】 若年層の性暴力被害の実態及び若年層の被害者支援における課題について把握し、関係者による様々な若年層への適切な対応や支援の検討に資すること。
- 【実地方法】 オンラインヒアリング（新型コロナウイルス感染症の拡大を背景）
- 【対象】 若年層の性暴力被害者への支援者・関係者（ワンストップ支援センター5か所及び支援団体等5か所）
- 【実施期間】 2022年1～2月

2. 若年層の性暴力被害の状況・傾向

- ワンストップ支援センターへの相談者が受けた性暴力被害は、強制的性交、強制わいせつが多く、性虐待、監護者性交等がこれに続く。
- 若年層への性暴力の手口は巧妙化（エンタラップメント、グルーミング等）しており、SNSを通じた被害も増加。
- ステイホームによる家庭内性暴力被害、被害者の孤立等、コロナ禍の影響が生じている。
- 性暴力被害の低年齢化の進行、男性・トランスジェンダーや障害者等の被害相談増加への対応も喫緊の対応課題。

3. 若年層の性暴力被害の相談状況

- 相談件数は2019年度までは明確な増加基調にあったセンターが多く（2020年度は横ばい・減少に転じるセンターもある）、その要因として10～20代の相談増加も挙げられた。
- 一度相談につながっても、その後連絡が途絶える等、「つながりにくく、途切れやすい」若年層の傾向に沿った対応が必要とされている。
- 72時間以内の相談が増加している一方で、被害後1か月後～半年での相談も多く、そのような性暴力被害者では心身の不調からPTSDへとつながるケースも多い。

4. 10代女性の性暴力被害

- SNSで知り合った人、性売買斡旋業者（スカウト）等からの加害がみられ、中でもSNSで知り合った人からの被害が頻発。
- 被害者は貧困・虐待を背景に家に居場所がない、家を出たい人が多く、公的支援機関へ不信感を持つ被害者も多い。

5. SNS・インターネットにおける被害

- スマートフォンの普及等により、素人でも性的動画をアップして収益化が可能になり、性的画像から性的動画に移行。
- 相談件数は急増傾向。特に中高生から性的な画像を送信してしまった、盗撮をされて拡散してしまった等の相談が増加。

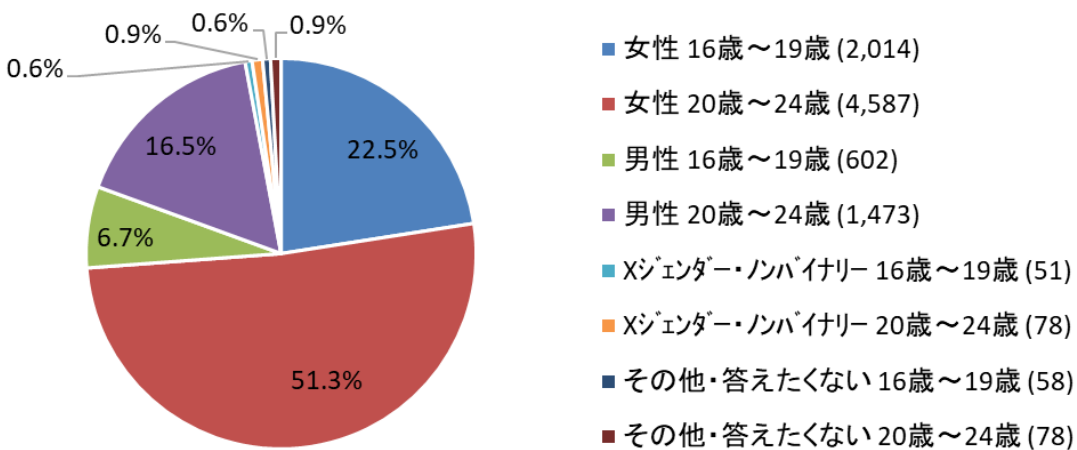
6. 痴漢被害

- 東京都における2018年～2020年の痴漢の検挙件数の3/4超が10～20代の被害者。男性被害者も約3%みられる。
- 全国における2018年～2020年の痴漢の検挙件数をみると、犯行場所は、駅・乗物内が5割超と最も多く、次いで路上、商業施設がそれぞれ1割～2割程度となっている。

若年層の性暴力被害の実態に関する オンラインアンケート及びヒアリング結果<参考>

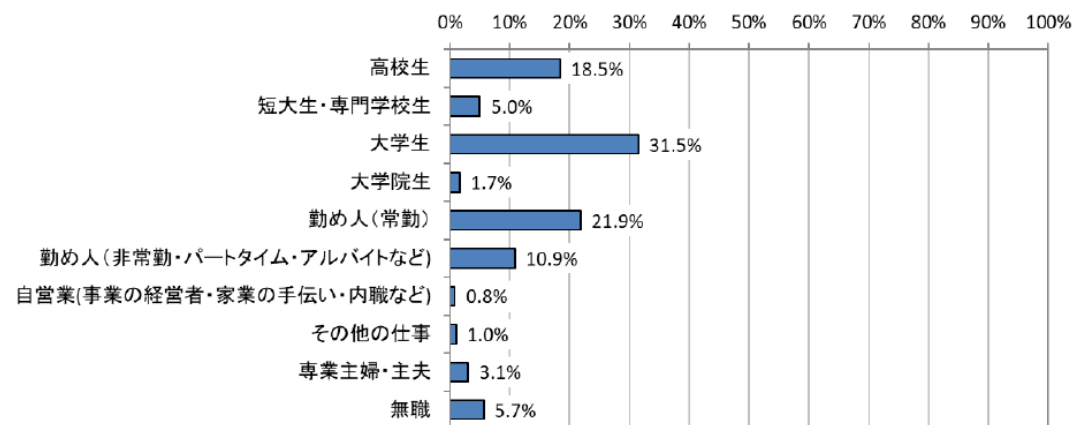
オンラインアンケート

スクリーニング調査 回答者属性 (n=8,941)

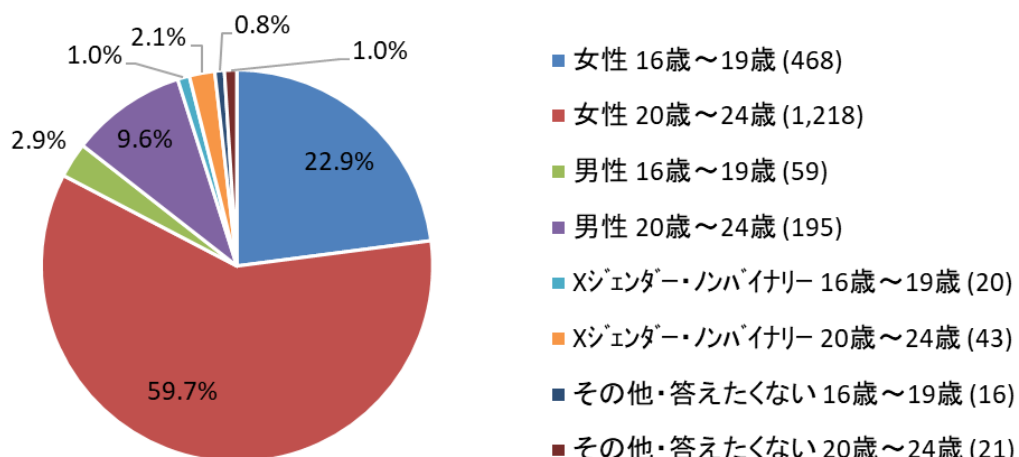


() 内の値は回答者数

図表 2-3 所属・職業 (n=8,941)



本調査 回答者属性 (n=2,040)



() 内の値は回答者数

図表 2-23 所属・職業 (n=2,040)

